



研究所トップメッセージ

技術を価値へ変え、 Hondaの 今と未来を支える

執行役
株式会社本田技術研究所
代表取締役社長

秋和 利祐

技術で人の役に立つことを、 全ての出発点にする

技術は、技術そのものを誇るためにあるものではありません。

私たちは、世の中のため、お客様のために

技術の創出を続けています。大切なのは、「お客様のどのような課題を解決するのか」「今のお客様には想像もつかない新しい価値とは何か」という問いと、技術が結びついていることです。研究開発の段階から、お客様がどう使い、どのような状態になれば価値を感じてい

ただけるのかを考える。それが、技術で人の役に立つということです。

Hondaの歴史を振り返ると、何もないところから、「世の中のために」「お客様のために」という想いを起点に、さまざまな商品や技術が生まれてきたことが分かります。時代が変わり、技術の幅は大きく広がっています。ものづくりだけでなく、ソフトウェアやデータも価値を左右する時代です。それでも、私たちが生み出したものによって、お客様の生活や社会を少しでも良い方向へ変えていきたいという根本は変わりません。

研究所の役割を端的に示す言葉に、「Hondaがどんな事態に直面しても困らないような商品を用意しておくこと」があります。これは、将来技術をただ研究しておくという意味ではありません。私たちは企業の中の研究所ですから、何になるか分からないものを、ただ研究していればよいわけではありません。一方で、会社の「次の一手」だけに視線が近づき過ぎても、新しいものは生まれません。いま置かれている状況の一步先、さらにその先まで視野を広げ、Hondaが将来もお客様に価値を届け続けられるように技術を仕込む。それが、私たちの使命だと考えています。

足元の事業を支えるため、技術を 商品へ実装するスピードを高める

Hondaはいま、事業基盤の再強化を図りなが

ら、将来の成長に向けた技術と価値の準備を同時に進める局面にあります。四輪事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。EV市場の変化、通商政策の変動、新興メーカーの台頭により、従来の延長線では戦えない局面に入っています。

その中で重要なのは、Hondaがこれまで積み重ねてきた技術を、お客様に選ばれる商品価値へ結びつけ直すことです。ハイブリッドシステムは、その代表的な技術の一つです。Hondaは長年にわたり、エンジン技術と電動技術を組み合わせ、お客様にとって現実的で使いやすい価値を磨いてきました。市場環境が変化する中でも、その技術の仕込みを続けてきたことが、いまの選択肢の広がりにつながっています。

一方で、EVの技術開発も止めるわけではありません。市場の成長ペースを冷静に見極めながら、いずれ来る需要の波に向けて、競争力ある技術の仕込みを続けています。バッテリー、車両制御、エネルギーマネジメント、ソフトウェアを含め、将来のお客様価値につながる技術を磨いていきます。

また、AD/ADASも、クルマの魅力を飛躍的に高める重要な技術です。自動運転レベル3で培った利便性と安全性を両立する技術をベースにAIによる技術の進化を加え、高速道路から市街地まで、より多くの場面で運転を支えることを目指しています。電動化技術や車両制御、ソフトウェアを組み合わせることで、安全・

Hondaとは

経営が描くHondaの未来

重要テーマとマテリアリティ

事業戦略

Hondaを支える本田技術研究所

▶ 研究所トップメッセージ

財務戦略

ガバナンス

関連データ

LINK

📺 Honda R&D





安心、快適さ、使いやすさを高め、お客様に選ばれる価値へつなげていきます。

こうした技術をいち早く商品へ実装するため、2026年4月、四輪開発本部とSDV事業開発統括部の研究開発機能を本田技術研究所に統合しました。これは、先行技術を仕込む部門と、量産に近い開発部門を一貫してマネジメントすることで、「この技術はお客様が早く求めているから実装を加速する」といった判断をしやすくするための体制です。

さらに、いま取り組んでいるのは開発の進め方そのものを見直すことです。開発期間や工数を短くする取り組みは、単に開発時間を削るためのものではありません。これまでのよ

うに部門が順にバトンを渡し合うのではなく、関係する部門が並走しながら、一緒に駆け抜ける。求める品質や判断基準を下げるのではなく、判断のスピードと進め方を変えるということです。

私たちが速くしたいのは、独創的な技術をお客様に届けるまでの時間です。技術を考え、創り込む時間はむしろ大切にしたい。その上で、最後に商品としてまとめ上げる期間を短くすることで、より鮮度の高い技術や、お客様のニーズに応える価値を早く届けることができます。お客様に必要な価値をより早く届けることは、商品力を高めるだけでなく、事業として価値提供を続ける基盤にもなります。

一方で、革新的な技術を生み出すには、徹底的に突き詰めるための時間が大事なときもあります。全固体電池を例にあげると、栃木のパイロットラインで徹底的に仕様とそれを具現化する生産技術を練りこんでいる段階です。EVの価値を抜本的に引き上げ、EVが当たり前に選ばれる世界の実現を目指していきます。

**将来の事業を支えるため、
独自技術を次の成長の種へ育てる**

ここまでは足元を支え、近い将来に備える技術の話をしてきました。研究所の役割は、それだけではありません。社会や市場が変わったとき、お客様に新しい価値を届けられるようにする。次の選択肢を増やしておく。それが研究開発に求められるもう一つの役割です。

お客様のモビリティに対するニーズは広がっています。移動したい、もっと自由になりたい、未知のものを体験したい。そうした想いは、人間の根源的な欲求です。その広がりの中で、Honda eVTOL、ロボティクス、サステナブルロケットなどの取り組みを進めています。これらは、すぐに事業の数字に直結するものばかりではありません。しかし、技術で世の中の可能性を拓き、次のHondaの選択肢を増やすという意味で、大切な活動です。

Honda eVTOLは、長年培ってきたガスタービンエンジン、ハイブリッド車で培った電動技術、モータースポーツやHondaJetで蓄積した

空力技術、四輪で培ったM・M思想などを融合することで、今までにない新しいモビリティを目指しています。本年4月には米国カリフォルニアで、実機とほぼ同じ大きさの技術検証機による飛行試験を開始しました。将来の社会実装に向け、一段ずつ技術検証を進めています。

ロボティクスも形になりつつあります。多指ハンドは、人と同じようにものを扱えるロボットハンドを目指す技術です。人の手のように繊細さと力強さを両立し、人が使う道具や多様な作業への対応を進めています。周囲を理解



Hondaとは
経営が描くHondaの未来
重要テーマとマテリアリティ
事業戦略
Hondaを支える本田技術研究所
● 研究所トップメッセージ
財務戦略
ガバナンス
関連データ

して動きを判断する協調人工知能と組み合わせることで、さまざまな場面で人々を支えるロボットを実現するコア技術となることを目指しています。現在は、自社工場で自動車部品のピッキングやバッテリーパックの組立工程など、実際の製造ラインを想定した検証を始めています。

サステナブルロケットも、昨年6月に離着陸実験に成功し、2029年の準軌道への到達能力実現を目指して研究を継続しています。

**一人ひとりの想いを技術に変え、
技術を価値に変え、その価値を
世の中へと届けて事業へつなげていく。
その循環をつくる研究所でありたい
と考えています。**



これらの取り組みに共通するのは、高い目標を設定し、それを実現するために何が必要なのかを考え、自らその技術を創り出してきたことです。これはHondaのDNAとして私たちに染みついている仕事の進め方です。

また、こうした挑戦は、突拍子もないところから始まったものではありません。二輪、四輪、パワープロダクツで培ってきた制御、エネルギー、メカトロニクス、ものづくりの知見を掛け合わせた先に、Hondaならではの強みが

あると考えています。大切なのは、これらを夢の技術で終わらせないことです。技術をどう進化させるか。それを事業にどうつなげるか。どの段階で社会実装や事業性を見極めるか。研究所の取り組みを、より一層Honda全体の経営や事業企画の機能と連動させながら、次の成長の選択肢として育てていきます。

若い技術者が、自分で新しい技術を 生み出せる場にする

Hondaはフィロソフィーや考え方を大切にしてきた会社です。中でも「The Power of Dreams」は、とてもHondaらしい言葉だと感じています。一人ひとりの想いを技術に変え、技術を価値に変え、その価値を世の中へ届けて事業へつなげていく。その循環をつくる研究所でありたいと考えています。

その力の源泉は人です。技術を創る場で人は育ち、そして、その技術がHondaの力として蓄積されていく。そのためにも、若い技術者が自分で新しい技術を生み出す経験を重ねられる環境をつくりたい。私自身、若い頃から大切な仕事を任せてもらい、苦労しながらやり遂げる経験をしてきました。その経験が、技術者としての自信や次の挑戦につながりました。今の若い人たちにも、同じように自分で考え、目標を定め、技術を創り出す経験をしてほしいと強く思っています。

人の夢が生まれる モビリティワールドを実現する

ここまでお話ししてきた通り、私たちは今の事業を支える技術、将来への種となる技術、そしてそれを育てる人、その力で変化の激しい時代にもHondaの今と未来を支えていきます。

研究所の役割は、技術を生み出すことだけではありません。独創的な技術をお客様にとっての価値へ変え、より良い形で、より早く世の中へ届けていくことです。

その挑戦の先に目指すのが、時空を超えて、人の夢が生まれるモビリティワールドです。

お客様に選ばれ続ける価値を生み出すために。そして、世界中の人々の喜びをHondaの技術で実現するために。独創性とスピードを両立し、お客様に必要な価値をより良い形で届けていく。その挑戦を通じて、「これからのHondaに期待したい」と感じていただける研究所であり続けます。

Hondaとは

経営が描くHondaの未来

重要テーマとマテリアリティ

事業戦略

Hondaを支える本田技術研究所

● 研究所トップメッセージ

財務戦略

ガバナンス

関連データ

